

小中一貫教育校 大泉桜学園の取組



Ⅱ期の縦割り活動（飯ごう炊さん）



全児童生徒が参加する対面式

施設一体型小中一貫教育校 大泉桜学園では、1年生から9年生（中学校3年）までの9年間を見通した教育を行っています。

発達段階に応じて、1～4年生をⅠ期、5～7年生をⅡ期、8・9年生をⅢ期としています。5・6年生は、7～9年生と同じ西校舎で50分授業を受けたり、社会や理科等で教科担任制による授業を受けたりするなど、指導体制を工夫しています。また、4年生がⅠ期のリーダーとして縦割り遠足や委員会活動で活躍しています。さらに、学校行事を通じた異学年交流を充実させています。入学式は1・7年生合同で、卒業式は6・9年生合同で行っています。部活動や児童生徒会活動には、5～9年生が一緒に取り組んでいます。運動会や桜祭（音楽会）などの行事は、9学年合同で行っています。

基礎的・基本的な学習内容の指導を充実するための取組として、平成25年度から系統的で連続性のあるカリキュラムの研究を行い、「さくらベシック」としてまとめました。

ねりまの 小中一貫教育



豊かな人間性・
社会性の育成

学力・体力
の向上

安定した
学校生活

ねりまの小中一貫教育は「授業改善による学力・体力の向上」「連携指導による豊かな人間性・社会性の育成」「滑らかな接続による安定した学校生活」の三つを通して、学習意欲や自己肯定感の向上、不登校の減少を目指しています。

小中一貫教育校および全ての小学校や中学校が9年間を見通した小中一貫教育に取り組むことで、子供たちの力を高めていきます。

小中一貫教育に取り組む小中学校のグループ

練馬区では、中学校1校と近隣の小学校1～3校でグループをつくり、子供たちの交流や学習上の連携を進めています。

グループの組合せは固定的なものではなく、中学校と通学区域が重なる小学校の中で連携先を増やしたり変えたりするなどの工夫をしています。

このグループごとの研究は、平成23年度に10グループの中学校区から始め、毎年グループを増やしていくことで平成28年度に全33グループにおいて2年間の取組を終えます。今後は各グループにおいて、連続性・系統性のある教育内容や教育方法の充実に関する研究を引き続き行っていきます。



合同授業内での小中学生の交流



中学生による小学生への部活動紹介

平成28年度の小中一貫教育の取組

合同授業



小中学生が同じ班で話し合いながら学習しました

乗り入れ授業



小学生が中学校教員から授業を受けました

リトルティーチャー



授業や補習で、中学生が小学生の学習を補助しました

読み聞かせ



中学生が小学生に本の読み聞かせをしました

児童会・生徒会交流



児童会・生徒会役員がSNSについて意見交換をしました

あいさつ運動



中学生が小学生に朝の挨拶を呼びかけました

行事への参加



中学校の合唱祭で小学生が歌いました

部活動体験



小学生が中学校の部活動を体験しました

クリーン運動



小中学生が協力して、地域を清掃する活動に取り組みました

作品の交流



小中学生の作品を交換して学校に展示しました

特別支援学級の交流



小中学校の特別支援学級がレクリエーションを一緒に行いました

小小連携



同じ中学校区の小学校2校と一緒に活動しました

小中教員研修会



小中学校の教員と一緒に地域理解学習を行いました

Q1 小中一貫教育を実践している小学校に入学すると、連携先の中学校に進学しなければならないのですか。

A1 通学区の指定や学校選択制の利用により、連携先以外の中学校に進学することができます。

Q2 小学校と中学校の学区が異なる地域が多い練馬区で小中一貫教育はできるのですか。

A2 区内全ての小学校と中学校では、小中一貫教育の取組として、9年間を見通した学習指導の在り方について研究しています。練馬区の小中一貫教育では、学習指導要領で定められた学習内容を分かりやすく指導することを大切に考え、学習のつまずきの解消を図っています。

Q3 一つの小学校からいろいろな中学校へ進学する状況で、どのように小中一貫教育に取り組むのですか。

A3 小中一貫教育を進めるために、中学校1校と近隣の小学校1～3校で研究グループをつくり、今年度までに全中学校区で2年間の研究に取り組んできました。3年目以降は小中一貫教育実践校として取組を継続しています。9年間を見通した視点でカリキュラムを作成したり、小学生と中学生が交流したりして、どの小学校からどの中学校へ進学しても安定した学校生活が送れるよう、小中学校の接続に配慮した教育活動を実践しています。一部の小学校については、連携校として取組に参加します。また、知的障害特別支援学級では、設置校である小学校と中学校を四つのブロックに分けて、研究や実践を進めています。

Q4 同じ中学校へ進学するのに、同じ研究グループや実践校の小学校から進学する子供とそうでない小学校から進学する子供がいると、学習状況に差が生じてしまうのではないですか。

A4 各小学校の状況に応じた取組が行われますが、学習指導要領に準拠して小中一貫教育を進めますので、学習内容や進度に差は生じません。

平成29年度以降のねりまの小中一貫教育は、中学校区を基盤として、これまでの成果の継続と充実に努めていきます。